

株式会社タムロン

2019年12月期 決算説明会

日時：2020年2月7日（金）17:00～18:00

【主な質問と回答】

Q1. 自社ブランド交換レンズの売上高のうち、ミラーレス用の売上構成比はどの程度なのか？

A1. 2019年では40%弱にまで高まった。2020年は投入する新機種は全てミラーレス用にするため、50%以上となる。

Q2. 2020年の写真関連事業の業績予想は、保守的に感じるが、見通しを低くしている理由はあるのか？

A2. レンズ交換式カメラ市場の縮小が継続するという市場前提でもあり、特に保守的な計画とは考えていない。高単価モデルを中心に展開し、自社ブランドは増収の計画である。

Q3. 中期経営計画のドローンの売上高計画から大きく変わってきているが、今後このビジネスは強化していかないということなのか？

A3. 今後も強化していく。ホビーを中心とした市場が成熟していることにより、見込んでいた数量が計画どおりには進まず、また受注予定機種の多くが中止になったが、産業用などの今後伸びていく新しいマーケットに対して、協業メーカーと仕切り直しして、伸ばしていくことを考えている。

Q4. 監視/FA において、中国市場で売上高を伸ばすとのことだが、どういったことで伸ばしてくのか？

A4. ここ数年、中国市場は拡大していたにもかかわらず、当社では受注が取れない状況が続いていたが、ここ 2 年の取組みによって、当社製品が採用されることができつつある。中国メーカーとは価格の差異はもちろんあるが、顔認証や監視カメラの性能向上等に伴う高付加価値レンズの需要増や品質管理面の優位性等によって受注につながってきている。

Q5. 設備投資がこれまでに比べて 2019 年で増えていて、2020 年も更に増える計画だが要因は？

A5. 中国工場での車載用の設備導入やベトナム工場のキャパ増設に伴う投資がある。また近年、新製品開発に伴う金型などで増えている。さらには技術開発に注力しているが、それらを更に進めるための投資も行っていく。

Q6. 減価償却が増える計画だが特殊な要因は？

A6. 設備投資の増加に伴うものとなる。また新機種の金型が増えていることも要因である。

<ご留意事項>

本資料は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しており、説明会でお話したことをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。